

第2回奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会議事要旨

と き：平成27年7月6日（月）
（13時30分～16時35分）

ところ：カルチャープラザ仁多
（農事研修室）

1. 開会

2. 会長あいさつ

1回目の審議の時には、色々ご意見をいただいた。これについては議事に先立ち、「審議の進め方」ということで改めて確認をさせて頂く。もう一つは、審議しろという中で原案が無いのは議論しにくいという意見が多くあった。その後事務局に審議してもらい、町長・副町長に成案をまとめてもらった。私達はその原案が適切か、過不足はないかということ審議していく。

3. 審議会の進め方（事務局）

資料No.1のところで、前回は庁内推進会議やプロジェクトチーム等を載せていたが、今回はわかりやすく審議会の日程のみ載せている。2ページ目には審議会策定のプロセスとして「若もん未来会議」、「庁内プロジェクト会議」、「総合戦略庁内推進会議」を記載している。総合戦略は役場の各課長で原案を作成する。それを審議会へ提出し、審議してもらい、答申する、というプロセスになる。そして3ページ目の審議会審議をする事項について大きなピラミッドを記載している。その中で、皆様に審議してもらおうのは「基本理念」、「基本の目標」、「施策の方向性」。そして欄外にあるが人口ビジョンについても意見が頂ければと思う。そして4ページ目からは議事の要旨である。

4. 議事

- (会長) 議事に入る前に、分科会について、7月中に分科会を単独で1回、また、3回目の審議会の後段で更に1回分科会をやる予定にしている。この中で皆さんに適切に審議してもらいたい。更に資料1の2ページのところで、前回の審議会「若もん未来会議からも意見を吸い上げる」と伝えていたが、実際、「若もん未来会議」は独立した組織であるので、「若もん未来会議」で出た意見の中から、重要なものは吸い上げるという意味で、点線をつないでいる。この審議会では皆さんに方向性や目標が適切かどうか原案に基づいて審議して頂きたい。その中で、それぞれの理念や目標、施策の方向性に向けて皆さんの思いを披露していただきながら審議を進めていきたい。
- (委員) 会議のスケジュールが出たが、他の会議と連携はとれているか。審議する内容が審議会にきちんと上がってくる予定になっているか。
- (事務局) 庁内推進会議と連携が取れる体制かどうかという質問だが、審議会の前には推進会議

を行っており、連携が取れている。

(1) 奥出雲町人口ビジョン（案）について

(事務局より資料説明。)

訂正：3. 人口対策による効果（2040年）

シミュレーション2 転入者数 41人→207人

転出者数 24人→188人

社会増減 17人→89人

訂正：6. 将来影響予測（食料品等の小売店分布密度）

最終行 1,275m 圏内→1,311m 圏内、1,653m 圏内→1,700m 圏内

(会長) 推計の方法の妥当性と内容の把握。次に目標値が妥当かどうか。

まず、事実関係等についてはどうか。

(委員) 町が持続可能な税収を示していただきたい。それが保たれる人口が目指すべき人口ビジョンではないのか。税収のビジョンの推計はしないのか。

(事務局) 財政的なラインは庁内会議等でも議論があるので、検討は進めて、できればまた審議会でお示ししたい。ただ、数百人、数千人の自治体も存在する中で、必要な税収に関する議論も必要だとは思うが、それはそれ、と個人的に思う部分もある。

平成の大合併の際、1万人を下回る自治体は合併するべきだという議論もあったことをご紹介したい。

(委員) 横田高校魅力化・活性化事業計画書について、何のために3クラス維持するかというと、2クラスになると教員の数が大幅に減少する。するとまず理科、地歴公民の教員から減らされる。物理、地理、公民がなくなる。そうすると国公立大志望者の夢を叶えられない。3クラス死守の為、魅力化活性化、生徒募集に努めている。今年の入学者数は79人で予想外に少なかった。ただし、町内から入学が減った一方、東京、神奈川から1名ずつ、ホッケーでは広島、岡山から一人ずつ来てくれた。県外からの入学者数は頑張ってもたかが知れているので、できれば町内の子どもの入学を促進させたい。町内の横田高校への入学を増やすべく、「横田高校魅力化・活性化事業計画書」に示す計画で今年、来年とやっっていこうと思っている。

(委員) 条件設定でシミュレーションしてあると思うが、設定した条件に実現可能性があるのか。我々も毎年横田高校から採用しており、来年も3人採用の予定だが、地元に残った子供たちが将来希望を持ってこの地域で暮らしていけるか、よく思って仕事をできるかどうか、それを企業と行政も一緒に考えていくべき。数字だけのシミュレーションではなく、人材育成とリンクしないと人は留まらないのではないかと。

(会長) 人口ビジョンと人口推計は相互作用なので、推計が変われば打つべき施策も変わる。対策もだが、まずはこのような数字の出し方が妥当かどうか、もっと辛くしたほうが

いいのでは？といったような意見等をお聞きしたい。

(委員) リハビリテーション学院は入学定員 60 名となっているが、少子化、競合校の存在で年々入学者数は減少している。また、卒業生の大半が松江、出雲出身なので松江、出雲に就職する。奥出雲に就職先がない。入学者数が減ってきている分、町の総人口の低下に影響が出ているのではないかと思う。

(委員) シミュレーション 2 の条件の設定の根拠は何か。

(事務局) 推計条件として変更できるパラメーターが、出生率、移動数、移動率だけしかない。①について、出生率 2.1 は国が示しているものでこれに準拠した数字にした。また、現在、奥出雲町における合計特殊出生率が 1.62、その前が 1.55 で回復基調にあると言える。それを考えると 2.1 は現実的な数字だと思う。ちなみに松江市の合計特殊出生率の目標は 2060 年に 2.44 という数字を設定されていたのでそれと比べても現実的であると言える。そして U・I ターン者の年間受入件数が 55 組 90 人となっているが、現状で 35 組 60 人とした実績があり、施策強度を 1.5 倍程度上げた場合、このくらいの規模は不可能ではないのではないかということで設定した。就職による転出者数は、直近で言うと 104 人であり、これを 5% 食い止めようという目標設定。また横田高校に関しては 11 人が県外就職なので、その半分を町内にとどめるという目標設定にした。

(事務局) 過去にも奥出雲町は 2.47、2.44 の出生率の頃があったので、ある程度最低限の目標は掲げていくべき。2020 年まで 1.62 というところは今と同じでいいのか？もう少し上を見た目標でもいいのではないかという思いもあり、更なる検討が必要であると考えている。U・I ターン者の年間受入件数は近年、実数ではクリアできるレベルまで来ているが、これをずっと続けていくことが必要。2040 年の 1 万人を目標にしていけばよいと思う。

(委員) 老年人口は死亡以外に減らないという推計になっているが、甘いのではないか。これから先、介護を受ける必要のある人が増えるが、施設は空いていても介護をする人材がいなため入れない、という現実が起こる。すると、老人も松江や出雲に出ていくことが予想される。要介護者、認知症の人、介護人材が全人口に対してどれだけいるかという推計をもって、そこが維持できるという前提が無いと老年人口が減らないというビジョンが成り立たない。

(事務局) 現時点における社会動態は全ての年代で反映されており、老年人口の減少も反映されている。しかし将来の影響分析は行っていなかったなので、その点についてはよいご意見をいただいた。分析したいと思う。

(会長) 委員の質問にあったが、物理的に計算してやっていく中で、社会環境の変化に対する評価はなかなか難しいが、それをマイナスにもプラスにも加味できるのではないか。そんなに難しくない目標値だといわれるが、それならこれまで人口が減らなかったはず。ハードルはやや高いのではないかと思う。目標に向かってみんなで頑張っていこうという雰囲気づくりが大事になってくる。

(2) 奥出雲町総合戦略骨子（案）について

（事務局より資料説明。）

（会長） あくまで骨子でありアウトプットの形ではない。施策の方向性までは審議会ではしか議論できない。このあたりを十分吟味いただきたい。まず、基本目標までをご議論いただく。

（委員） 2 ページの心豊かに語り合えるまちのところで「医療体制の充実」とあるが、人材がいない。保育士、介護士、看護師がいない。本当にいない。施設も働く人がいなくて維持できない。そういう人材の育成を目標に掲げていけないといけない。介護の問題は大きく、これによって家庭の問題も生まれたりする。危機感を持ってやってもらいたい。

（事務局） 2 ページは既存の総合計画であり、参考までに載せている。只今指摘のあった部分については9 ページひとつづくり③にそういうことのイメージとして「医療福祉人材の確保」という文言を載せている。

（会長） 介護人材は必要で受け皿もあるのだが、現実問題、人が来ていない。事業をやれば来るのか？というもっと大きな問題になる。

（事務局） 重要施策として位置付けるべきだという意見があれば適宜反映させていきたい。

（委員） 町民一人ひとりが本気で町をどうにかしたいという気持ちがないとどうにもならない。そういった精神面での施策の遂行方法はあるか。

（事務局） 町民一人ひとり、地域の皆さんの理解と行動がないと難しい。まち・ひと・しごとの順番もただ国に倣ったわけではない。

若者、女性を地域で支える、つながりが深まって安心して暮らせるまちにならないと、いくら子育て支援で補助金を出したり、雇用支援をしたりしても定着につながらないだろうという考え方を持っている。町民個人にもっと意識を醸成していく施策の方向性だとか、基本理念等にもっと盛り込むべきというご意見があれば頂ければと思う。

（委員） まだ若者が田舎の良さに気付いていない。それを大人が気付かせなければならない。

（委員） 計画として盛りだくさんで結構だと思う。邑南町では、住まい、仕事、幼稚園をセットにして支援することによって母子家庭を呼び込むことに成功している。他にも国が出している CCRC 構想も石川県ではうまくいっている。団地を作って、医療施設、介護施設、スーパーが徒歩圏内に集中している。比較的うまくいっていると聞いた。理念や戦略も、何か一つ「これをやろう」というものを出してもらえると議論しやすい。提案事業一覧での医療福祉関係では島根リハビリテーション学院も貢献できると思う。施策に盛り込んでもらえると良い。

（会長） 柱がほしいという意見は事前打ち合わせでも出たので、少し色を着けてもいいのではないかと思う。

（事務局） 今の段階ではそこまで考えが及んでいないが、今後、重点が絞れるかどうかを含めて検討したい。

CCRC は町の財政、医療費等、様々な問題がからんでいる中で医療費を国が負担するかどうかもまだ見えない。そこに向かっていくかどうか、判断できる状況でないということもご理解いただければと思う。

- (委員) 松江市、雲南市、飯南町が CCRC 構想に手を挙げている。
- (事務局) 奥出雲町も検討はしているが、まだ手を挙げられる状況には至っていない。
- (委員) 書いてある中で女性にスポットを当てたことが謳われているが、現実として、弊社の若手社員の女性は相手がいるが、男性社員は相手がいらないようだ。書きぶりは難しいかもしれないが、男性にしっかりしてほしいという施策も必要ではないかと思う。そういう現実も知った上でビジョンを立てないと宙に浮いてしまう。
- (事務局) おっしゃる通りで、私も「特に男性」というワードを入れていたが、削除した経緯がある。地域でのつながりがもっと出て、若い人たちが次世代のリーダーとして活躍できる町が出来れば男性も積極的になるのではないかと思う。
- (委員) 6 ページの基本視点に「就職に伴う町外への人口流出を抑制する」、とあるが、大体どこの普通高校も 8 割が進学、2 割が就職である。住民票を置いたまま県外で就学することもある。一回進学しても U ターンしてもらうことが大事であり、もちろん就職者も地元就職してもらう、という意味の文だと思うが、この表現で町民は分るのか。
- (事務局) 大卒の U ターンは一つの大きな視点だと思っている。ここの表現については、大卒の方にいかに地元就職してもらうかが分かるような書き方を検討したい。先日東京に研修に行った際に聞いた話では、大卒時に東京から地元に戻りたいという学生は多くいるが、皆、地元働く場所がないと言う。まずは地元で受け皿をつくらないといけないという話だった。戦略の中にも施策の方向性として色々盛り込んでいるが、より分かりやすい形での記載を考えていきたい。

(3) 意見交換

- (委員) この戦略の中に女性に特化したという戦略が出てきたことが驚いている。役場にとっては女性が生き生きしていないように見えている認識なのか。また、仕事について、職種を問わずに言えばサービス業、介護は人が足りない。都市部で総合職を経験された方が、仕事がないと言われてるように思う。
- (事務局) 前回の審議会でも若い女性の減少が著しいことをご紹介したことから、若い女性に絞った施策が必要だということになった。一方で、なぜ女性だけ？という思いはありながらも骨子を作っている。今後も議論をしたい。
- (会長) 仕事があるはずなのに仕事がないと言われる。本当にそうなのだろうか？仕事のギャップ以上に、都会に魅力があるからではないのか。
- (委員) 女性に関係する項目が多い印象を受けた。しかし逆に女性が元気すぎる場所もある。地域の活動にしても女性の活躍が目立っている。子どもが生まれると人間関係でぎくしゃくする。嫁姑関係しかり。自分は実家なので気軽に子供を預けること

が出来るからよいが、義実家では預けにくいという声も周りでよく聞く。人間関係に抵抗感があることもあり、助けを借りずに自分でなんとかしようとしてしまう部分もあるのではないかと。奥出雲町にも男女ともに若者がいるが、結婚に対して魅力を感じている人が少ないように思う。そういう魅力を独身者に伝えられる機会があると良い。

(会長) 奥出雲町は中山間地にしては合計特殊出生率が低すぎるように思う。先ほど言われていた男女の出会いや結婚について組み込んでいかなければ解決しないのではとの意見もあったが、どうなのか。

(事務局) 地域の中での助け合い、子育てへの理解が必要であると考えている。地域のつながりが深くなることも理想のひとつとしているので、意見をいただければと思う。

(委員) 高学歴の U・I ターン者の受け皿について、雇用の場はないことはない。過去に社会情勢的に見て高学歴者はどんどん出ていくと言われた時代があったが、現在、高学歴者を受け入れられる企業があるのかないのか。魅力ある企業の創出に力を入れないといけない。受け皿になる企業もどうやってそういう企業に生まれ変わっていくかという努力をしないといけない。そういう部分が奥出雲町に欠けている。社会や地域に問題があるのではなく企業に問題があるのではないかと。

(委員) 基本目標や理念はおおよそ良いのではないと思う。鳥上地区では結婚支援を行っており、広島等から人を呼んでイベントを開催している。施策では女性の問題として挙げられているが、一番の問題は、男性がしっかりしないといけない。男性の教育が最大のポイント。

住民一人一人の意識を高めなくてはならないので、自治会のあり方を検討しないといけない。奥出雲町には 120 の自治会があるが、システム等がマンネリ化しているように思う。具体的なポイントの認識、勉強が必要。

(委員) 戦略策定の背景として、人口増加対策に失敗しているのか？また、役場が策定できないから審議会を開いているのか？よく分からない。

文化的なまちだと町民がよく言っているが、あまりそうは感じない。たたらとか言われるが暮らしに直接関係ないのでは？観光客のためにあるのか、町民のプライドのためにあるのか。それがまちづくりに繋がるのか。

地方創生の関係で専門学校にも話がくるが、役場と何かしようと思わない。柔軟に対応してもらえないと聞く。行政の方から話は来るが、行政の中でどう変えようと思っているのかが分からない。その辺が見えないまま審議会をやっても何も変わらない気がする。

(事務局) なぜ審議会というやり方かということなのか？

(会長) 行政がどういう方向にもっていこうと思うかが見えないという発言だと思う。

(委員) 提案いただいている戦略案はどこにでもあるもの。奥出雲町は本当にこれがしたい！というものが見えないのでどう審議していいかわからない。

(事務局) どのまちでも同じだと言われたらそれまでだが、奥出雲の将来を見据えて考えている。人口減少に歯止めをかけたいという思いを持って議論しているつもりだが、ご

指導いただきながら推進体制など考えていきたいと思う。どこでも同じ様な言葉かも知れないが、現段階では想いを持って考えた理念から導いた結果であるとしか言えない。

(委員) 町の顔が見えない。

(会長) 町の顔が見えないというよりは、奥出雲町らしさが見えないということだと思う。中山間地域では行政の力が大きいですが、その意欲や態度が見えにくいので、今後の進め方において、役割分担などで反映していけばいい。

(委員) 誰が考えても出てくるものが出てきていると思う。これまでで失敗したのだろう。ぎりぎりのラインに来たということだと思う。高校存続の問題も何十年前から出ていたが、何もしてこなかったツケが回ってきたのだと思う。なぜ戦略策定しないといけないかということが皆に伝わっていない。みんなが同じステージにいないので、分かっていない人もいる。人口減少はテレビで見た・・・程度に思っている人もいる。事実認識のレベルをそろえていく必要があるのではないかと。動機づけをしっかりと、知恵をいかに結集して施策に結びつけるかが一番大事だと思う。

(委員) 基本視点の中に女性が住みやすく、働きやすい環境を整備する、とあるが、女性は優秀で、成果を上げている。そこに男性も含めてほしい。女性に限らず男性も住みやすく働きやすい環境を整備してほしい。職場でも女性のほうが強い、男性が自信をもって暮らせる町になると良いと思う。それと、施策で何を一番やりたいのか分からない。この戦略を出してもマスコミは食いつかないだろう。何か1つはメインテーマを作してほしい。

(委員) 町民の危機感がなく、他人事である。広報が出てもお悔やみが多いな～くらいの認識だと思う。危機感を共有することが根底にある。施策の体系的を絞って、奥出雲ならではのものがないと人口増にはつながらない。他市町の真似をするだけではダメであり、施策の質を高める必要があると思う。

(委員) 自分の地元では昨年、学校がなくなり統合した。運動会をしても子どもより大人のほうが多い。街中が女性のお年寄りの世帯ばかりになってきたので高齢女性で支え合っている。人が減るので売店がなくなる。車の運転もできないので乗り合いタクシーで市に買い物に行く。街中から外れたところでは耕作放棄地が増え、それがだんだん街に近づいてきている。奥出雲町も、まだ見えていないだけでだんだんそうなっていくのだろうと思う。この人口減少というのは非常に構造的な問題だと思う。細かく中身を見て、なにがどう変わって、どう対策を打つかというのを考えて備えをしないといけない。奥出雲では農業は60歳以上の人口が80%以上を占めている。どう農業を維持するか。農業が衰退すると村社会がなくなるのでそれにどう対応していくかを考えないといけない。

(委員) 過去の農林業に対する思いが少ないということで責任を感じている。JAが県下統合したが、これと似ているのではないかと感じた。平成30年には農業人口が減るので統合ということだが、そうした中で自然豊かな奥出雲を何で伝えるかが課題になると思うので、魅力的な農業を探さないといけない。それと少子化対策は結婚すれば子

どもは生まれると思っているので、それより婚活をどうするか。奥出雲の女性はでアパート暮らしをするが、男性は家から通う。出会いの機会をつくることが我々の役目ではないかと感じる。その辺を含めて施策をもう少し絞りながら、財源のこともあるので、話をしてスポットを当てないといけない。このままではこれまでと同じになると思う。

(委員) 基本目標1のような社会が実現できたら果たして人が増えるのか？親は子供を都会に出したがっているので矛盾があるのではないか。親のほうの方が豊かで良い町だと思っていないのではないか。本当に残りたいまちを基本目標に掲げるべきではないか。仕事があっても10年先も見てくれる人がいない。結婚しながら若者。結婚すれば子どもが生まれるという神話のような話に頼って奥出雲町の人口ビジョンを掲げていいのかという気持ちである。それともう一つ、外国人労働者の受け入れに対する意見はなかったのだろうか。10年先にはそうしたものに頼らなければいけない時代が来るかもしれない。そういった事は総合戦略の中に話がなかったのか、入れる必要はないのか。

(委員) 特徴と課題は都市部以外ではどこでも共通することなので、霞が関が考えればよい話だと思う。先ほどから出ている様に奥出雲町ならではというものは何かというのを見せることが必要。子どもたちが誇りを持って、出て行っても帰ってきたくなるもの、最大公約数的なものを示してはどうか。選択と集中が必要になる。本日、近代の産業遺跡が世界遺産に登録されたが、たとえば奥出雲町だったら「たたら」を世界遺産にするなどといった目標、夢、誇りを世界に発信、世界に自慢できる次代に向けての夢を設定してリーダーシップをとってもらいたい。一点突破して広げるやり方があると思う。そしてそれがニュースになり、世界に拡散していくのではないかと思う。

(委員) いろんな意見が出ていて非常に活発だと思う。奥出雲町で生まれ育った人間として、いつかはここで骨を埋めるつもりで何か貢献したいと思う。我々建設業も高齢化が進んでいるというのがあり、そういう時代の中で、家業から企業に変わらないと優秀な人材が入ってこないというのがある。企業の責任の方が大きいのはよくわかる。町とは別の考え方で企業も経済を成り立たせていく必要がある。ただ、総合戦略は町が無難な形で動くのはやむを得ないと思っている。施策の部分で奥出雲町らしさを出し、審議会で議論できると良いと思う。

(会長) 住民自身の危機感のなさは、それだけ皆さんが幸せに暮らされているからではと思っている。特色を出すと町民から意見が出るので、町民から意見が出ることに対して覚悟を決めなければならない。

女性や子育ての意見が出る中で、男性が頑張してほしいという意見が強調されたように思う。

全体の枠組みや理念よりも、具体の中での重点施策、目玉施策があるほうが整理しやすいかも知れない。分科会では具体について議論してほしいというのが今日の整理だと思う。一方で奥出雲らしさというのは7ページの想いのところであることはあるが、表現が分かりづらいのかもしれないので整理したいと思う。

(委員) 8ページと9ページの施策の方向性が3つか4つあるが、これはこれで決定して進めるということか？

(会長) 「まち」「ひと」「しごと」という枠は決めてしまう。施策の方向性は分科会で議論してもらいたい。ただ、施策そのものが重要だという意見も多かったので、方向性と施策それぞれを審議していただきたい。

(委員) 分科会で両方を並行して審議するということか。

(会長) 原案としてはこれ。ただし、方向性は変わる可能性があると思う。

(委員) 施策の方向性は決めてしまわないと案が出せないと思う。また、施策が多い印象がある。例えば「まち」の②と「ひと」の①は似通っているので統廃合してもう少しシンプルにしてもいいのではないか。

(会長) それなりに意味があってそれぞれの施策が立ててあるが、シンプルにすべきという議論もあっても良いと思う。おそらく、この原案のまま分科会に突入することにはならないと思う。今日の議論を踏まえて事務局で再整理されると思う。

5. その他

(事務局) 第3回審議会は8月7日。審議会のあとに分科会を開催する。分科会では基本目標、施策の方向性をご審議いただきたい。

(6) 閉会

以上